



図書館員が選んだおすすめ本 100 冊

ヨコガン



Yokote City Librarians One Hundred Recommended Books 2023

私のペースで しおりは進む

2023・第77回 読書週間
10/27～11/9



たくさんの中の中からどんな本を読んだらいいか迷ってしまう、
そんな人に、本を選ぶきっかけとなるブックリストを作成しました。
横手市立図書館のスタッフ 30 人がそれぞれに選んだ一冊です。

これ面白いから読んでみて！私が選んだ本の話をししましょう！
そんな想いを持って図書館でお待ちしています。

あなたの一冊に出合っしてほしい。
みなさまに本との新たな出会いが訪れますように。

横手市立図書館

※本の紹介文はニックネームで掲載しています。

※掲載の 100 冊はすべて市内の図書館で借りることができます。
お近くの図書館にないときは予約してください。お取り寄せいたします。

『風に溺れる』

青羽 悠/著 PHP 研究所 2020



913.67

OLの遙は日常に疲れ、YouTubeで音楽を聴いていた時、偶然流れてきた曲に心惹かれる。それは亡きミュージシャンの曲だと知った。その曲に影響を受けたのは遙だけではなかった。ひとつの曲で繋がる6人の男女を描いた青春物語。(モモンガ)

『名探偵の生まれる夜』

青柳 碧人/著 KADOKAWA 2022



913.67

大正の時代に生きた実在の作家たちが探偵となり、様々な事件を解決していく推理小説。作家本人の参考資料をもとに、作品の舞台や細やかな現場の様子も丁寧に描いた一話完結の全8話オムニバス。(砂糖さん)

『息子のボーイフレンド』

秋吉 理香子/著 U-NEXT 2021



913.67

「俺、男が好きなんだ」。高校生の息子の突然のカミングアウトに動揺を隠せない母。苦悩の末、自分は彼らの味方でいようと決めたものの、夫にはなかなか言い出せずにいた。一途な恋と家族の絆がしみるホームコメディ。(I.K)

『わたし、定時で帰ります。』

朱野 帰子/著 新潮社 2018



913.67

絶対に残業しないと決めている東山結衣。元婚約者から新プロジェクトのチーフに任命されるが、そこにはチームに無茶な仕事を振るブラック上司が着任。労働環境が大きく変わっても結衣は定時退社の信念を貫けるのか。(茶トラ)

『少女奇譚 あたしたちは無敵』

朝倉 かすみ/著 KADOKAWA 2016

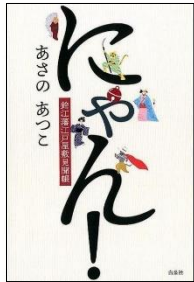


913.67

下校中に不思議な光る粒を拾った小学生のリリア。これはきっと選ばれし者の証で自分は魔法少女になれるに違いない、そう確信するが―。表題作ほか、少女たちのあやうさと日常に潜む不思議との出会いを描く5つの物語。(I.K)

『にゃん!』

あさの あつこ/著 白泉社 2018



913.67

鈴江藩江戸屋敷に突如として沸いたご正室さまは猫、の噂。屋敷に奉公にあがっていた呉服屋のお糸は、噂の真相を知ってしまい…。藩の乗っ取り、愛憎劇、噂の裏で巻き起こる、お糸とちょっと不思議な一族とのお話。(砂糖さん)

『火のないところに煙は』

芦沢 央/著 新潮社 2018



913.67

新宿区新楽坂を舞台に怪談を執筆することになった作家の「私」。自らの体験を元に綴られた作品が雑誌に掲載されると、私のところには様々な怪異譚が集まってきて一。全6編のフェイクドキュメンタリー風のホラー短編集。(T.T)

『向日葵を手折る』

彩坂 理香子/著 実業之日本社 2020

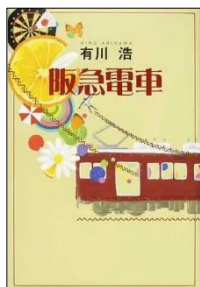


913.67

小学6年生のみのりが移り住むことになった小さな集落は、閉鎖的な身内意識に包まれていた。級友達は「向日葵男」が子どもを殺すという噂に怯えている。思春期の少年少女たちが様々な出来事を通して成長していく物語。(A2)

『阪急電車』

有川 浩/著 幻冬舎 2008

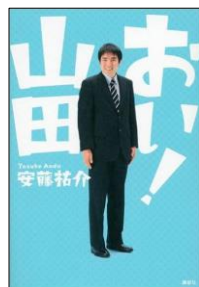


913.67

えんじ色のレトロな車体、内装が個性的でかわいい阪急電車。ローカル線を舞台に、それぞれの主人公と登場人物との出会い・別れ、恋模様や壮絶な愛憎劇などが描かれるヒューマンドラマ。停車駅ごとの短編ストーリー。(POM)

『おい！山田』

安藤 祐介/著 講談社 2014

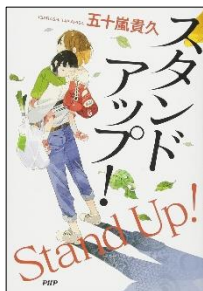


913.67

広報宣伝部に異動して早々会社のゆるキャラに任命された山田。そのマネジメントをすることになった水島。あるプロジェクトを任された二人は、同僚の力を借りて困難に立ち向かっていく。人情味溢れる仕事小説。(Y.S)

『スタンドアップ！』

五十嵐 貴久/著 PHP 研究所 2018

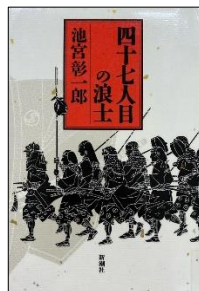


913.61

気が弱く人付き合いが苦手で友達がいなかった愛は夫の暴力から逃れ娘と二人見知らぬ土地での生活を始める。成り行きでボクシングジムに入会するが、周囲の人々の協力と後押しを受け愛の気持ちは強く前向きになってゆく。(A2)

『四十七人目の浪士』

池宮 彰一郎/著 新潮社 1994



913.61

赤穂浪士のひとり寺坂吉右衛門は、吉良上野介邸への討入後、大石内蔵助に隊を離れるよう命ぜられる。その役目は一統が処断された後もひとり生き抜き、証人として世に残ること。寺坂は苦悩しながらも同志のため奔走する。(T)

『ジェリーフィッシュは凍らない』

市川 憂人/著 東京創元社 2016



913.61

業界世界最大手の UFA 社が開発した新気嚢式浮遊艇<ジェリーフィッシュ>の最終試験のため技術開発員 6 人が搭乗。自動航行システムによって順調だった最終日に事件が起き、連絡を受けた刑事のマリアと九条は現場に向かう。(ノラネコ)

『御社のチャラ男』

絲山 秋子/著 講談社 2020



913.61

食品会社の部長、通称「チャラ男」を軸に社員たちの視点で会社を語る群像劇。年齢も立場も違う社員が各々語ることでコミュニティの中で感じる息苦しさ、いまだ古い会社という組織や社会の在り方が浮き彫りになっていく。(おこめ)

『あなたならどうする』

井上 荒野/著 文藝春秋 2017



913.61

表題作をはじめ、昭和歌謡の歌詞からイメージされた9編の短編集。病院で出会った男女、ワケありの仕事を共にする男女…幸せと呼ぶには遠く、ままならない関係が曲の持つ憂いと湿度をまとい表現されている。(おこめ)

『死神を祀る』

大石 大/著 双葉社 2022



913.61

東北の地方都市はるみ市に、死神を祀る神社がある。穏やかな死を願う参拝客で過疎化の進む町は賑わい潤う。しかし参拝後に亡くなる人が続くと、町の人々の心は次第に荒んでいく。6話とエピローグからなる短編集。(りんご)

『踏み跡にたたずんで』

小野 正嗣/著 毎日新聞出版 2020



913.61

様々な地方に残る土地の記憶を辿る短編小説。目に見えぬもの、失われてしまった数々の思い出や記憶のかけら、声なき声に耳を傾ける。踏み跡にたたずんでいるのは、夢か現か…不思議な味わいが心に残る全 36 編。(砂糖さん)

『通夜女』

大山 淳子/著 徳間書店 2019



913.61

お通夜にひっそりと現れる通夜女(つやめ)と呼ばれる老婆。彼女は葬儀の場では密かに重宝される存在だった。通夜女に惹かれた無職の小夜子は、共に通夜巡りをしていくが…。ビジネスとしての葬儀と人間模様を描いた作品。(砂糖さん)

『あなたの人生、逆転させます』

小笠原 慧/著 新潮社 2016



913.6オ

大学4年の森野美夢は連続続きでようやく決まった就職先・奥田メンタルクリニックで心理療法士としての生活を始めた。息子との関係に悩む母親や極度の潔癖症に悩む女子大生など様々な患者と接しながら成長していく。(こたら)

『疑薬』

鍋木 蓮/著 講談社 2017

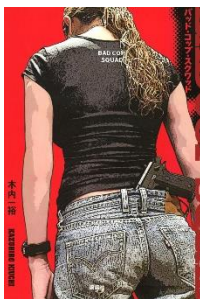


913.6カ

新薬のおかげで10年前母親は命を救われたが眼が見えなくなった。それは薬の副作用なのか、それとも…。見知らぬ記者が娘の心に波紋を投げかける。新薬の開発、ジェネリック医薬品、製薬会社の裏に迫る医療ミステリー。(モフモフ)

『バッド・コップ・スクワット』

木内 一裕/著 講談社 2022



913.6キ

埼玉県警捜査員が被疑者を誤って射殺してしまう。主任の菊島はそれを隠蔽するため、ある事件の犯人たちが仲間割れしている事を利用して一旦は窮地を切り抜けるが、犯人たちの対立が激化し再び彼らの犯罪に巻き込まれる。(A2)

『万波を翔る』

木内 昇/著 日本経済新聞出版社 2019



913.6キ

幕末期、開国を迫る異国との対応を担うため外国方に任せられた田辺太一。日本の行く末を握る困難なお役目に対して、江戸っ子気質の主人公が失敗しながらもひたむきに己の職務を全うしようと奮闘する姿を描く。(T)

『オペラ座の美女』

鯨 統一郎/著 光文社 2014



913.6ク

バー〈森へ抜ける道〉の常連客で、探偵に引けを取らないほどの推理力を持つ桜川東子。お気に入りの酒を片手に、バーで話題になった難事件を「サロメ」「椿姫」などの著名なオペラになぞらえて推理する。(まる。)

『雛口依子の最低な落下とやけくそキャンボール』

呉 勝浩/著 光文社 2018



913.6コ

3年前の猟銃乱射事件の謎を解明すべく、被害者の依子は加害者の妹である葵に強引に連れ回される。次第に明らかになる「叔父さん」による洗脳と歪な事件の真相。常識外れな女ふたりの理不尽な運命への逆襲劇。(ごる)

『玉手箱』

小手鞠 るい/著 ハルヒコロケーション 1995

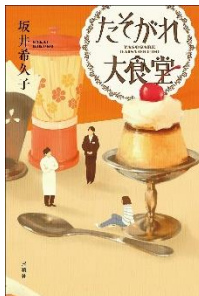


913.6 J

不妊から代理出産を依頼したあかねと、代理母となった瑠璃子。上手くいくと思っていたのに、子どもが大きくなるにつれてふたりの女性にはそれぞれ葛藤が生まれていく。表題作他2編を収録した著者第1作目の短編集。(T)

『たそがれ大食堂』

坂井 希久子/著 双葉社 2021



913.6 夕

蔵の町マルヨシ百貨店で昭和から続く大食堂を、代替わりした若社長は閉めようとしていた。大食堂を残したいスタッフ達は、今まで代わり映えのしなかったメニューをリニューアル。集客と売り上げを増やすために奮闘する。(りんご)

『ぼくは悪党になりたい』

笹生 陽子/著 角川書店 2004

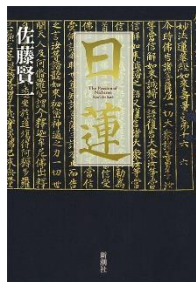


913.6 夕

仕事で不在がちな母親に代わり、家事全般をこなしながら異父弟と3人で暮らしている男子高校生のエイジ。自由奔放な家族や友人の中で、不満が限界に達したエイジは家出を計画する。悪党を目指す小心者な少年の青春小説。(かぼちゃ)

『日蓮』

佐藤 賢一/著 新潮社 2021

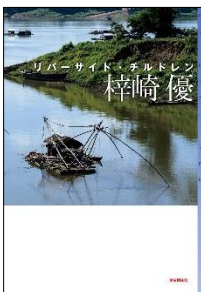


913.6 夕

大地震や洪水、飢饉、疫病、蒙古襲来など災難が連続する鎌倉。日蓮は法華経こそがこの世を救うと信じ、時の権力者たちと争う。二度の流罪や法難に遭いながらも、信念を貫き続けた日蓮宗の宗祖、日蓮の半生を描く。(わいわい)

『リバーサイド・チルドレン』

梓崎 優/著 東京創元社 2013

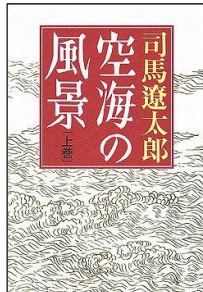


913.6 夕

カンボジアでストリートチルドレンとなったミサキは、7人のグループでヴェニを中心にゴミを拾い日々生きている。街では忌み嫌われ警察にも追われる存在だが、貧しくても幸せはあった。ヴェニの遺体が見つかるまでは…。(ノラネコ)

『空海の風景 (上・下)』

司馬 遼太郎/著 中央公論新社 2005



913.6 夕

平安時代、唐へ渡り日本に真言密教をもたらした弘法大師・空海。エリートコースからの出家、唐への留学、最澄との対立、空海は何を考へ行動していたのか。著者の考察と想像が、人間味あふれる空海像を浮かび上がらせる。(わいわい)

『三軒茶屋星座館』

柴崎 竜人/著 講談社 2013



913.6ㄱ

プラネタリウムに集う人々の悩みを、若い館主の星空解説が癒してゆく。彼らに家族のような絆ができてつあったある日、館主の過去が明らかになる。くだけた口調で語られるギリシャ神話も印象的。シリーズ全4巻。(ふっくん)

『最後の一球』

島田 荘司/著 原書房 2006



913.6ㄱ

依頼者の母親が自殺未遂した原因が、悪徳金融業者への借金だと突き止めた御手洗潔。御手洗は頭を抱えるが、ある日、母親から借金を返さなくてもよくなったと連絡が入る。そこにはふたりの野球人の熱い絆が関係していた。(Y.S)

『薬喰』

清水 朔/著 KADOKAWA 2022



913.6ㄱ

U 県北條市二桃地区には神隠しの伝説がある。そこで起こった少年二人の殺害事件。第一発見者の容姿端麗な作家・籠目周と警察から一目置かれるタヌキ先生の通称を持つ祝秋紀の息の合わない二人が事件解決に挑む。(ことら)

『サード・キッチン』

白尾 悠/著 河出書房新社 2020



913.6ㄱ

桁外れの努力を重ね、夢に見たアメリカの大学への留学を果たした尚美。友人もできず、授業についていくことが必死の毎日は孤独感でいっぱい。彼女を変えたのはサードキッチンという名の学生たちが運営する食堂だった。(菅さん)

『灰色の北壁』

真保 裕一/著 講談社 2005



913.6ㄱ

嫉妬心から冬山でミスを誘発し、仲間を陥れようとする山岳部の大学生。たった一人でホワイト・タワーを制した天オクライマーへの疑念。山で命を落とした亡き息子を追う父。山への情熱と私欲が渦巻く山岳ミステリー3編。(わいわい)

『幸福な食卓』

瀬尾 まいこ/著 講談社 2004



913.6ㄱ

「父さんは今日で父さんを辞めようと思う」と宣言した父、別居中の母、元神童の兄。そして主人公の佐和子。それぞれの悩みを抱えながら再生していく家族の姿が優しく描かれた切ない長編小説。(はる)

『貸本屋おせん』

高瀬 乃一/著 文藝春秋 2022



幼い頃から本が好きなおせんは天涯孤独の身だが男勝りで貸本屋としてたくましく生きている。人々に本を届けるため日々写本に励み高荷を背負いながら、お節介が高じてあちこちで起きた怪異や事件の真相を探っていく。(A2)

913.6 ㊦

『大天使はミモザの香り』

高野 史緒/著 講談社 2019

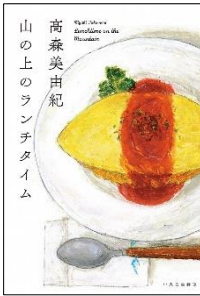


アマオケでヴァイオリンを弾く光子は、有名奏者の演奏会で、時価2億円のヴァイオリン「ミモザ」が消えた事件に巻き込まれる。アマオケのパートナー拓人と「ミモザ」を探中、今度は光子のヴァイオリンが狙われる。(りんご)

913.6 ㊦

『山の上のランチタイム』

高森 美由紀/著 中央公論新社 2019



葵岳のふもとにあるレストランで働く明るくちょっどドジな主人公美玖。イケメンシェフ登磨と甥っ子で不登校の瑛太と働いている。美玖が葵岳へ訪れる人々と心を通わせながら自分の過去と向き合い成長していく短編集。(なつ)

913.6 ㊦

『悲しみの夜にカピバラがおしえてくれた大切なこと』

瀧森 古都/著 SBクリエイティブ 2021

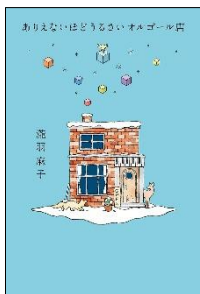


30年前、動物園のカピバラ小屋で保護された加比原譲二。小学生たちに「カッピー」と呼ばれ親しまれる。彼の周りの人たちがそれぞれ抱える家族の心の葛藤や悩みが、「カッピー」の純粋な心に救われていく物語。(sora)

913.6 ㊦

『ありえないほどうるさいオルゴール店』

龍羽 麻子/著 幻冬舎 2018

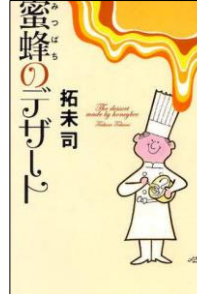


北の町でひっそりと営業している静かで小さなオルゴール店には、様々な思いを抱えた人々が訪れる。心の中に流れる音楽を聴きとれる耳の良い店主が作ったオルゴールを通して、人々は思い出に寄り添い未来へ進んでいく。(かぼちゃ)

913.6 ㊦

『蜜蜂のデザート』

拓未 司/著 宝島社 2008



フレンチのシェフ幸太。料理に負けない存在感のあるスイーツを考案していたが、好奇心が災いして、神戸の人気スイーツ店で連続して起こった食中毒事件と関わることになる。幸太がスイーツ界で起きた事件の謎解きに挑む。(パセリ)

913.6 ㊦

『短編ホテル』

大沢 在昌ほか/著 集英社 2021



913.6㊦

絵本作家の義母と絵描きの娘が最後に過ごしたのは北海道のホテルだった。余命幾ばくもない義母の願い、そして親子二人で作った最初で最後の絵本。心温まる話や怖い話などホテルを舞台に描かれる7編の短編アンソロジー。(こたら)

『優しい死神の飼い方』

知念 実希人/著 光文社 2013



913.6㊦

死神のレオはこの世に悔いを残しているものを導くために、犬になってホスピスで任務にあたる。しかし過去の事件が絡み合い、事態は危険な方向に。ホスピスの人々の想いが切ない、感動の医療系ファンタジー・ミステリー。(モフモフ)

『残像に口紅を』

筒井 康隆/著 中央公論新社 1995



913.6㊦

この小説にはルールがある。物語が進むと日本語表記の「音」が一つずつ消えていき、その音を含む言葉は使えなくなる。文章から文字が一つずつ消えていく世界で、作者は最後まで物語を紡げるのか。究極の実験小説、開幕。(T.T)

『雨夜の星たち』

寺地 はるな/著 徳間書店 2021



913.6㊦

他人に心を開かない三葉雨音は、同僚の退職をきっかけに仕事を辞め、人に気を使わなくてもよい好都合な「しごと」に誘われる。仕事として関わった様々な人との出会いを通じ、徐々に変わり始める雨音の成長物語。(sora)

『院内カフェ』

中島 たい子/著 朝日新聞出版 2015

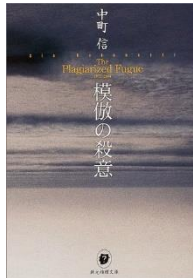


913.6ナ

いろいろな人々が集う院内カフェ。不妊に悩んでいたカフェで働く亮子が、夫の言葉に救われる夫婦の絆の話をはじめ、様々な人々の悩みを、いつでも優しい空気で包み込んでくれる、院内カフェの7つの物語。(sora)

『模倣の殺意』

中町 信/著 東京創元社 2004



913.6ナ

とある作家が自宅アパートで服毒死した。遺書は見つからなかったが、現場の状況から自殺として処理された。他殺を疑う彼の恋人と友人は、別々の角度から死の真相究明を試みる。叙述トリックの先駆けとなった作品。(まる)

『わたしをみつけて』

中脇 初枝/著 ポプラ社 2013



913.6†

准看護師の弥生は施設で育ち内向的な性格。今まで職場の不都合なことにも見て見ぬふりをしてきた。そんな彼女が新任の看護師長や心通う人たちと出会い、その温かさにふれ、自分の進むべき道を見つけていく成長物語。(パセリ)

『僕は、そして僕たちはどう生きるか』

梨木 香歩/著 理論社 2011



913.6†

主人公の僕は14歳。久しぶりに不登校の親友を訪ねたことで物語がはじまる。不登校の原因となった出来事を知り、心に誓った「考え続けるをやめない」こと。瑞々しく美しい自然の描写と、著者からの問いにあふれた一冊。(菅さん)

『臨床の砦』

夏川 草介/著 小学館 2021



913.6†

コロナウイルス第3波の中、治療最前線に立った小さな病院。手探りで終わりのない診療を続け、時に心無い言葉や視線を向けられる医療従事者たちは何を思っていたのか。現役医師である著者が描く医療現場の現実の物語。(おこめ)

『僕はもう憑かれたよ』

七尾 与史/著 宝島社 2015

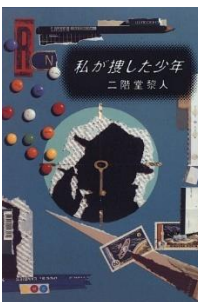


913.6†

恋人の裕三を亡くし悲しみを抱える真知。自分が眠っている間に別の人格が勝手に行動していると気づいた玲二。二人をつなぐ転落事故の真相を調べるうち、裕三の死には一冊の本が関わっていることが明らかになる。(I.K)

『私が捜した少年』

二階堂 黎人/著 双葉社 1996



913.6二

渋柿信介(幼稚園児)は孤独を愛する私立探偵。友人から依頼された事件はもちろん、現役刑事の父親の関わる事件まで、そのずば抜けた才能で謎を解いていく。ハードボイルドかつユーモアあふれるミステリー短編集。(モフモフ)

『僕僕先生』

仁木 英之/著 新潮社 2006



913.6二

王弁は少女の姿をした仙人・僕僕に弟子入りする。様々な神仙と交わる旅のなか恋人のような関係を築いた二人だが、妖異と疑われた僕僕に討伐隊が向けられてしまう。中国神話を基にしたファンタジー。全11巻。(ふっくん)

『無年金者ちとせの告白』

西尾 潤/著 光文社 2022



913.6二

膝の痛みに耐えながら高速のパーキングエリアで働く独り身で73歳のちとせは、清掃部に異動になったことで車上生活者たちの惨状を目の当たりにする。さらに元夫の知人という胡散臭い男が現れ、ちとせを困惑させる。

(A2)

『痴者の食卓』

西村 賢太/著 新潮社 2015



913.6二

「お鍋買わない?」と恋人に提案された北町貫多。ケチなため気乗りしないものの、恋人の強い推しに負け、仕方なく鍋を購入した。その後、箱から取り出した鍋からは悪臭がして—(『痴者の食卓』)。全6編の私小説集。(T.T)

『雨降る森の犬』

馳 星周/著 集英社 2018



913.6Ⅱ

幼い頃に父親を亡くし、母親は恋人を追ってアメリカへ。中学3年の雨音は信州の山の麓で犬と暮らす叔父の元で暮らすことになった。感情を抑え込むように過ごしてきた雨音の心の変化が描かれ、家族の形を考えさせられる。(菅さん)

『ゆめつげ』

畠中 恵/著 角川書店 2004



913.6Ⅱ

舞台は江戸。実家の神社ではたらく神官の兄弟のもとに、大店の跡取り息子の搜索依頼が舞い込んだ。兄・弓月の持つ夢占いの能力を頼りにこれを引き受けるが、思いがけず大きな事件に巻き込まれることになってしまう。(I.K)

『この闇と光』

服部 まゆみ/著 角川書店 1998



913.6Ⅱ

国内の動乱から父王とともに幽閉されながらも愛情に満ちた生活を送る盲目の姫レイア。しかしそれは偽物に過ぎなかった。姫を「怜」と呼ぶ両親を名乗る男女が現れ、美しい御伽噺のような「レイア」の世界は崩壊する。(まる。)

『やがて訪れる春のために』

はらだ みずき/著 新潮社 2020



913.6Ⅱ

入院中の祖母の家を訪れ、花が咲き誇る思い出の庭の荒れ果てた様子を目にした村上真芽。庭の手入れを始めた真芽は、祖母の認知症、家の売却話などの困難に直面する。幼い頃の夢へとつながる、家族と庭の再生の物語。(わんこ)

『東京ポロロッカ』

原 宏一/著 光文社 2011



913.6ハ

多摩川にポロロッカ(大逆流)が起きるとの噂がまことしやかに流れる。最初は半信半疑だった住民たちは、次第にその噂に心を操られていく。登場人物たちの利害関係が絶妙に絡み合う人間模様を描いた7編の短編集。(パセリ)

『ハルカの空』

樋口 明雄/著 徳間書店 2014



913.6ヒ

登山者の命を守る人々と山岳救助犬の活躍を描く「K-9」シリーズの短編集。山小屋スタッフが遭難事故の実態に直面する「ハルカの空」、亡くした息子を追うかのように吹雪の山へ入った警察官を捜索する「NO WAY OUT」他5編。(ふっくん)

『ハルカ・エイティ』

姫野 カオルコ/著 文藝春秋 2005

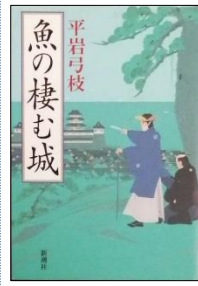


913.6ヒ

太平洋戦争をはさみ激動の時代を過ごした、大正8年生まれの遥の一生を描く。過酷な時代を恨むことも、他者を羨むこともなく、日常に楽しみを見つけ朗らかに過ごす。80歳をすぎ背を伸ばして歩く描写が清々しい。(菅さん)

『魚の棲む城』

平岩 弓枝/著 新潮社 2002



913.6ヒ

江戸時代に悪名高い為政者として歴史に名を遺した老中・田沼意次。本当は破綻しかけていた幕府を立て直すべく奮闘した、現実的で有能な政治家だった…。その姿を時代小説の名手が描いた歴史小説。(モフモフ)

『睦家四姉妹図』

藤谷 治/著 筑摩書房 2021

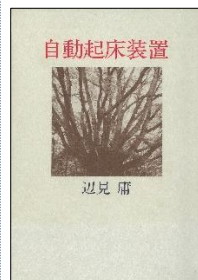


913.6フ

神奈川県に住む両親と四姉妹の一家の軌跡を、1988年から2020年まで数年ごとに辿った家族の物語。実際にあった事件や話題も盛り込まれており、自身の記憶と共に読み進めていくことができる懐かしさを感じる一冊。(かぼちゃ)

『自動起床装置』

辺見 庸/著 文藝春秋 1991



913.6ヘ

東亜国際通信社の宿泊センターには起床を手助けする臨時職員がいた。深夜のバイト仲間の妖しさと不愉快な起床、そして、自動起床装置に置き換えられる人間の仕事を。眠りに纏わる人間模様を描き、人間らしく生きることを考えさせる作品。(WS)

『おせっかい屋のお鈴さん』

堀川 アサコ/著 KADOKAWA 2016



913.6 ホ

信用金庫に勤めるカエデの元に、消息不明だった父から「自身の墓参りに来てほしい」という手紙が届く。不注意でとある墓石に躓いた瞬間、未練を抱えた少女の幽霊が現れた。少女と数々の騒動を解決していくファンタジー。(かぼちゃ)

『あかり野牧場』

本城 雅人/著 祥伝社 2020

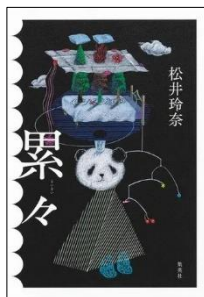


913.6 ホ

北海道の小さな牧場で生まれた競走馬キタノアカリ。牧場を営む家族、馬産地の同業者たち、レースに勝てない騎手、強い馬に巡り会えない調教師―。多くの人の期待と不安を背に乗せて、キタノアカリは G I レースに挑む。(T.T)

『累々』

松井 玲奈/著 集英社 2021



913.6 7

半同棲中の彼からのプロポーズにハッキリ返事できずにいる23歳の小夜。彼氏の親友と秘密の関係を続けるパンちゃん。相手によって様々な顔を見せる女性の姿とそれぞれの恋愛の形を描いた連作短編集。(I.K)

『デフ・ヴォイス』

丸山 正樹/著 文藝春秋 2011



913.6 7

ある事情で警察事務員を辞め、手話が出来たことから手話通訳士の職に就いた荒井。法廷通訳を依頼されたり者者の窃盗事件と自身が過去に関わった事件が交錯し、荒井は心に抱えていた家族への苦悩や葛藤と対峙していく。(おこめ)

『星間商事株式会社社史編纂室』

三浦 しをん/著 筑摩書房 2009

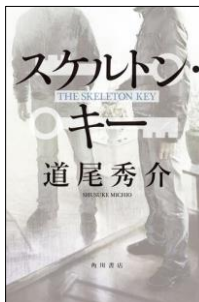


913.6 ミ

社史編纂室に勤務する幸代。会社に隠れてボーイズ・ラブの小説を執筆中、うっかり課長に原稿を見られてしまった。しかしそれがきっかけで会社の秘められた過去が明らかになっていく。趣味と仕事の両立がテーマ。(あびす屋)

『スケルトン・キー』

道尾 秀介/著 KADOKAWA 2018



913.6 ミ

生まれつき恐怖という感情が欠如した主人公錠也は、週刊誌の危険な潜入調査の仕事に請け負っている。周囲からサイコパスと呼ばれる彼の出生の秘密が明らかになると同時に、守ってきた平穏が崩れ始める。(はる)

『誰かが見ている』

宮西 真冬/著 講談社 2017



913.6ミ

偽のブログで幸せな家庭を演じる千夏子、年下の夫とのセックスレスに悩む結子、彼氏持ちだがストレスによる摂食障害の春花、一見幸せな家庭に見える柚季の四人の女性が抱える悩みを通して「女性の生き方」を問う物語。(ノラネコ)

『俺達の日常にはバッセンが足りない』

三羽 省吾/著 双葉社 2021

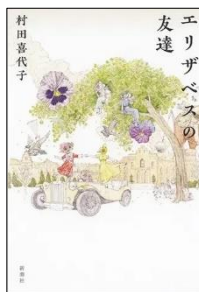


913.6ミ

「バッチングセンターを作る」と突然言い始めたエージに困惑するシンジだったが、その理由を聞いて力を貸すことにした。待ち受ける困難を乗り越え、二人は無事にバッチングセンターをオープンすることができるのか。(Y.S)

『エリザベスの友達』

村田 喜代子/著 新潮社 2018

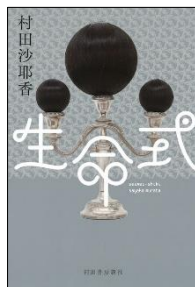


913.6ム

97歳の初音さんは認知症を患い老人福祉施設で暮らしている。娘のことも忘れてしまった彼女が生きているのは戦前暮らしていた天津の日本租界での華やかな日々。過去を生きる母と見守る二人の娘の姿は切なくも温かい。(おこめ)

『生命式』

村田 沙耶香/著 河出書房新社 2019



913.6ム

亡くなった人を参列者で食べながら男女が受精相手を探す「生命式」が葬式の新しい形となった世界で、主人公は変化を受け入れられずにいた。正常とは何なのかを考えさせられる作品。表題作をはじめ、短編全12編を収録。(はる)

『桜風堂ものがたり』

村山 早紀/著 PHP 研究所 2016



913.6ム

月原一整は宝物のような1冊を見つけ出す書店員。売り出したい本を見つけたが退職することに。ネットで知り合った友人の店を任せられ、書店員として再スタートする。1冊の本とふたつの書店が起こす小さな奇跡のものがたり。(まめた)

『家族連写』

森 浩美/著 PHP 研究所 2015



913.6モ

独身主義の彼女が、彼氏の家族と一緒に過ごして結婚を決める「しあわせやあ」。写真を撮るのが趣味の夫が妻の写真を撮らなくなった本当の理由「ピンボケ」。ほか、家族との何気ない日常の出来事を描いた8つの物語。(りんご)

『梅もどき』

諸田 玲子/著 KADOKAWA 2016



913.6㍺

戦乱の時代に徳川家康の寵臣本多正純とお梅夫婦が、お互いを思いながらいかに生き抜いてきたかを教えてくれる。数奇な運命にもかかわらず、お梅の方が一人の女性としてたくましく運命に立ち向かう姿にも励まされる。(ぴっか)

『明日の食卓』

椰月 美智子/著 KADOKAWA 2016



913.6㍻

境遇も住んでいる場所も全く違う、何の接点もない3人の母親たちの共通点は、9歳の「ユウ」という子どもがいること。みな必死に子育てをしていたが、家庭は徐々に綻びを見せ始める。母親たちの悲痛な思いが胸を刺す。(T)

『おれは清麿』

山本 兼一/著 祥伝社 2012



913.6㍽

妥協を許さず、一心不乱に至高の一振りを鍛えることに注力した男・山浦環正行。人間関係が破綻することも厭わず、金銭感覚も欠如する程の熱情は、周囲の人間を魅了していく。幕末に実在した刀鍛冶を題材にした伝記小説。(T.T)

『仮面家族』

悠木 シュン/著 双葉社 2021



913.61

このマンションに来て十日、佐々木家は母と自称画家の新しい父と栄子の3人暮らし。栄子は毎日の出来事をノートに報告し、母から赤ペンで書かれた通りに行動させられる。最初の指示は隣家の美湖と仲良くなることだった。(ノラネコ)

『国宝 (上・下)』

吉田 修一/著 朝日新聞出版 2018



913.63

極道立花組の親分の息子である喜久男と、歌舞伎役者の息子である俊介。生い立ちの異なる二人は血筋や梨園のしがらみ、時代の変化に巻き込まれながら共に芸を磨いていく。芝居に人生をかけた男たちの熱く儂い物語。(わいわい)

『RE*PAIR』

吉永 南央/著 中央公論新社 2012



913.63

革製品のリペア職人透子は、10年前に別れた元婚約者が妻子を伴い町に帰ってきたことを知り心は揺れる。折しも別れの原因となった詐欺事件の容疑者の片足が河川敷で見つかり、過去の事件の真相があらわになっていく。(パセリ)

『さよなら妖精』

米澤 穂信/著 東京創元社 2004



913.63

高校生の守屋たちはユーゴスラヴィアから来た少女マーヤと偶然出会う。共に過ごし友情を深めるが、2か月後マーヤは帰国する。1年後にその故郷が戦禍にあると知った彼らは安否を気遣うが…。青春と戦争がテーマの物語。(パセリ)

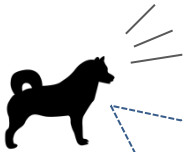
『カラスは言った』

渡辺 優/著 中央公論新社 2022



913.67

インターネットの投稿監視員をしている僕の部屋の窓にやってきた一羽のカラス。そのカラスは、僕に向かって横山と呼んだ。話すカラスに導かれるように、動画配信者から逃げ、横山を探す日々が始まった。(砂糖さん)



ここからはエッセイやノンフィクションのジャンルから選んだおすすめ本です

『100年人生 七転び八起き』

外山 滋比古/著 さくら舎 2019



914.6ト

ロングセラー『思考の整理学』で有名な著者の自伝的エッセイ。幼少期から95歳の当時に至るまでの、自身の思い出や考えたことなどを振り返りながら、長い人生を愉しく生きていくコツを書き綴っている。(T)

『スマホになじんでおりません』

群 ようこ/著 文藝春秋 2022

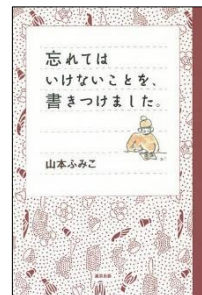


914.6ム

老愛猫のために前期高齢者の著者が初めてスマホをもつことに。その後次々とやって来る、パスワード・アプリ…カタカナ用語の嵐。小さい画面で入力に悪戦苦闘。それでも果敢にスマホに立ち向かう毎日を綴ったエッセイ。(モフモフ)

『忘れてはいけないことを、書きつけました。』

山本 ふみこ/著 清流出版 2014

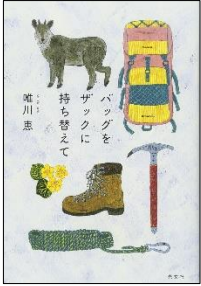


914.6ヤ

日々の様子を日記の様に綴った一部。食事や飼い猫との別れを通して感じた、生涯忘れたくない気持ちを綴った二部。心の糧となる児童文学書を紹介している三部からなるエッセイ。何気ない日常が愛おしく感じられる一冊。(かぼちゃ)

『バッグをザックに持ち替えて』

唯川 恵/著 光文社 2018



915.61

運動とは無縁の生活を送っていた著者は、飼犬を亡くした喪失感を埋めるために登った浅間山で、山の魅力に目覚める。その後トレーニングを積み、エベレスト街道のトレッキングに挑戦するまでの過程を綴ったエッセイ。(りんご)

『困ってるひと』

大野 更紗/著 ポプラ社 2011



916.1

1984年生まれの著者が自己免疫疾患系の難病に襲われたのは大学院生の時。入院検査生活も、治療の経過も壮絶。医療制度や社会保障の壁に絶望するが、人々の助けに生きる希望を微かに見いだすノンフィクション。続編あり。(菅さん)

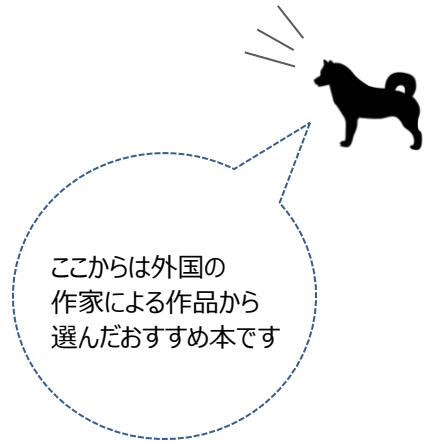
『更年期障害だと思ってたら重病だった話』

村井 理子/著 中央公論新社 2021



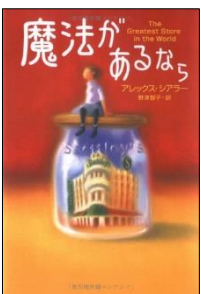
916.4

多少の不具合は更年期障害だと思い込んでいた47歳のある日、突然倒れた。診断結果は「心臓弁膜症」だった。人生の岐路で「一人で入院し一人で歩いて元気に退院する事」を目標にたて挑む著者の闘病記。(あーさん)



『魔法があるなら』

アレックス・シアラー/著 野津 智子/訳
PHP 研究所 2003



933.7シ

「“ベッドの下に隠れる”ゲームをするわよ」ママの一言から始まった新しい生活。山のようなおもちゃで遊び、社員食堂で夕食をとり、寝具売り場のベッドで眠る。閉店後の高級デパートでこっそり暮らす母娘3人の冒険譚。(まる。)

『探偵コナン・ドイル』

ブラッドリー・ハーパー/著 府川 由美恵/訳
早川書房 2020



933.7ハ

名探偵ホームズの生みの親であるドイル、抜群の推理力を持つベル博士、女流作家マーガレット。19世紀のロンドンに実在した人物たちが切り裂きジャック事件を追う。シャーロキアン元軍医による推理小説。(ふっくん)

『直線』

ディック・フランシス/著 菊池 光/訳
早川書房 1990



933.77

兄の死により宝石の輸入会社を受け継いだ騎手デリック。行方不明になった遺産のダイヤモンドを追う中で疎遠だった兄の人柄を知る。賢くタフな男が敵に命を狙われながらも、兄が愛したすべてを守ろうと奮闘する。(まる。)

『ニッケル・ボーイズ』

コルソン・ホワイトヘッド/著 藤井 光/訳
早川書房 2020



933.7ホ

元少年院の敷地から43体の遺体が発見された。1960年代、アフリカ系アメリカ人の高校生エルウッドは無実の罪で少年院・ニッケル校に送られる。そこでは何が行われていたのか。実在した少年院を元に描かれた物語。(わいわい)

『湿地』

アーナルデュル・インドリダソン/著
柳沢 由実子/訳 東京創元社 2012



949.57

レイキャヴィクのアパートで男の遺体が見つかる。扉は開いたままで争った跡はなく、遺体の傍に血の付いた灰皿と不可解な言葉が記された紙が残されていた。糸口のない中、捜査官のエーレンデュルは被害者の過去の犯罪歴を見つける。(ノラネコ)

『未来のイヴ』

ヴァリエド・リラダン/著 高野 優/訳
光文社 2018



953.6ヒ*

女神のように美しいが無知で軽薄な恋人に悩む貴族男性の相談を受けたエジソン博士は、彼に「男の夢を傷つけない理想の女」として人造人間ハグリーの提供を持ち掛ける。アンドロイドの概念を日本に広めた古典的名作。(ふっくん)

『私の欲しいものリスト』

グレゴワール・ドラクール/著 中島 さおり/訳
早川書房 2014

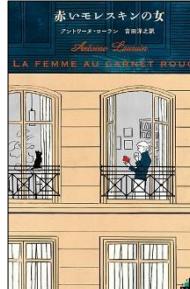


953.7ド

手芸店を営む47歳のジョスリーヌは家族4人、幸せな日々を送っていた。そんな中購入した1枚の宝くじが当選。大金を手にした彼女は事実を秘めたまま3つのやりたいことリストをつくる。お金と幸福について描いた物語。(こたら)

『赤いモレスキンの女』

アントワーヌ・ローラン/著 吉田 洋之/訳
新潮社 2020



953.7ロ

パリで書店を経営しているローランは朝の散歩の途中、ゴミ箱に置かれていた紫色の革製のハンドバックを見つけた。中には著名作家のサイン本や赤い手帳が入っていた。わずかな情報を手掛かりに持ち主探しが始まる。(こたら)

ヨコワン 2023
図書館員が選んだおすすめ本 100 冊

2023 年 10 月 27 日

横手市立図書館
【問合せ】
図書館課(横手図書館)
〒013-0021 横手市大町 7-9 電話 0182-32-2662